



OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

http://www.osaka-ue.ac.jp/

発行：大阪経済大学広報課 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 / 本紙へのご意見は、webmst@osaka-ue.ac.jpへお寄せ下さい。(本紙記事の無断転載を禁ず)



チームハットリ君3回生

大学生のためのプレゼンテーション大会「西日本インカレ(合同研究会)2015/日経BDMマーケティング主催」予選会が、11月29日(日)、本学D館4・5階教室で開催された。今回の出場校は、本学をはじめ、19大学・71チーム。第1部と第2部、さらにA〜Fの6グループに分かれて、情報収集力

「論理性」に着目し、「情報収集力」「質問対応力」などを競い合った。本学からは、ZEMリーディングチームが参加。第1部では、経済学部・服部ゼミの「チームハットリ君3回生」が「一人」と「おせい」



Mr.尾身Children

「じゃあほ」は「アンカリング効果」が意思決定に及ぼす影響をRC Tを用いた検証実験より、「テーマで発表。5チームともパワーポイントデータや発表者の話し方・動きなどが、ZEMリーディングチームと比較して大幅にアップされ、質疑応答においても、審査員からの鋭い質問

個性あふれる提案 学生独自の視点から

「じゃあほ」は「アンカリング効果」が意思決定に及ぼす影響をRC Tを用いた検証実験より、「テーマで発表。5チームともパワーポイントデータや発表者の話し方・動きなどが、ZEMリーディングチームと比較して大幅にアップされ、質疑応答においても、審査員からの鋭い質問

「じゃあほ」は「アンカリング効果」が意思決定に及ぼす影響をRC Tを用いた検証実験より、「テーマで発表。5チームともパワーポイントデータや発表者の話し方・動きなどが、ZEMリーディングチームと比較して大幅にアップされ、質疑応答においても、審査員からの鋭い質問



服部クワトロフォルマッジ

果は12月1日(火)に発表され、本学からは「Mr.尾身Children」、「服部クワトロフォルマッジ」、「チームハットリ君3回生」、「チームKENJI」の4チームの本戦出場が決定。本選は12月20日(日)、本学で開催され、西日本地区12チームが競うことになった。



チームKENJI

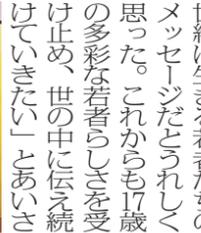


第15回高校生フォーラム 17歳からのメッセージ

今しかつむげない言葉で



D館12教室での表彰式では、徳永光俊学長が「手書きの原稿に込められた魂の叫びに、これが21世紀に生きる若者たちのメッセージだとうれしく思った。これからも17歳の多彩な若者らしさを受け止め、世の中に伝え続けていきたい」とあいさ



D館12教室での表彰式では、徳永光俊学長が「手書きの原稿に込められた魂の叫びに、これが21世紀に生きる若者たちのメッセージだとうれしく思った。これからも17歳の多彩な若者らしさを受け止め、世の中に伝え続けていきたい」とあいさ



D館12教室での表彰式では、徳永光俊学長が「手書きの原稿に込められた魂の叫びに、これが21世紀に生きる若者たちのメッセージだとうれしく思った。これからも17歳の多彩な若者らしさを受け止め、世の中に伝え続けていきたい」とあいさ



D館12教室での表彰式では、徳永光俊学長が「手書きの原稿に込められた魂の叫びに、これが21世紀に生きる若者たちのメッセージだとうれしく思った。これからも17歳の多彩な若者らしさを受け止め、世の中に伝え続けていきたい」とあいさ



「プレセントに隠れた姿」の題で父に反抗する者のが和やかに歓談。



「自分への励ましを受賞作」思春期モヤモヤに託し、「今は部活動で結果を出したい」と話した。また、永野琴美さん(宮崎県立赤江まっぼら支援学校)はグランプリ受賞作「私が小説を書く理由」の中で「小説の世界で私は自由になれる」と述べ、



「社畜」に出る仕事を頑張りつつ趣味として書いていきたい」と抱負を語った。最後に、本学経済学部・近藤直美教授が「書いていたものを人に見てもらい、また自分で見つめ直すことで、この先自信をもって進んでいける、そのきっかけになれば」とエールを送った。



「社畜」に出る仕事を頑張りつつ趣味として書いていきたい」と抱負を語った。最後に、本学経済学部・近藤直美教授が「書いていたものを人に見てもらい、また自分で見つめ直すことで、この先自信をもって進んでいける、そのきっかけになれば」とエールを送った。

主な記事 contents

- (1) 17歳からのメッセージ、西日本インカレ
- (2) 黒正塾、中小研ゼミナー他
- (3) 大樽会だより
- (4) 5面 ZEMリーディングチーム他
- (6) 7面 経大スポーツ
- (8) 8面 教職KAWARABAN他

卒業式・学位授与式のご案内

2015年度大阪経済大学 卒業式・学位授与式を下記のとおり挙行いたします。

午前の部	午後の部
対象学部：経済学部、人間科学部、大学院経済学研究科、大学院人間科学研究科	対象学部：経営学部、情報社会学部、大学院経営学研究科、大学院経営情報研究科
場所：70周年記念館 フレアホール	場所：70周年記念館 フレアホール
日時：2016年3月15日(火) 10:00～(入場は9:30～)	日時：2016年3月15日(火) 13:00～(入場は12:30～)

お問い合わせ 大阪経済大学 総務部総務課 (06) 6328-2431代

- 学生・保護者の方用の駐車場がありません。車でのご来場はご遠慮ください。
- 収容人数の関係で、保護者の方は式場内へお入りいただけません。あらかじめご了承ください。なお、同館3階の教室において、式典の様相を同時放映いたします。

2016年度 教育懇談会のお知らせ

下記の日程を予定しております。

大阪 6.18 国 受付 9:30～ ▶大阪経済大学	岡山 7.9 国 受付 10:00～ ▶岡山プラザホテル
京都 7.2 国 受付 10:00～ ▶TKPガーデンシティ京都	高松 7.10 国 受付 10:00～ ▶JRホテルクレメント高松

黒正塾 第13回秋季学術講演会

中国の歴史ロマンと人間ドラマを追求



伊藤晋太郎准教授

第13回秋季学術講演会「三國志研究」。二松学舎大学・文学部の伊藤晋太郎准教授が「武將から神へ」をテーマに、28日(土)の2日間、D館10教室で開催された。今回、D館10教室で開かれた。今、学術院大学・国際研究教育機構の村松弘一教授が「三國志研究」をテーマとして「関羽」について、武勇で知られるが、

「天下三分の計」前夜「三國志」を生んだ後漢時代の地域創生のテーマで講演を行った。

21日の講演「武將から神へ」は、関羽の研究を始めたきっかけを、小学校時代にNHKの人形劇で三國志を見て好きになり、その後、ゲームが発売されるなど三國志に触れる機会が増え、徐々に興味が増していった。大学の卒業研究のテーマは「諸葛孔明(しよかくわいめい)」だったが、関羽という人物について、大学院時代に、将来は「生涯にわたる劉備の(うべい)に忠誠を尽くした。武勇で知られるが、

吉田建一郎所長のコメント



日本経済史研究所は、本学初代学長黒正蔵博士が創設に携わり、80年を超える歴史を誇っている。今後も、先輩方が築いてきた歴史研究の

伝統を大事にしなが、歴史研究の世界における存在感を高めていきたい。

現在の主な活動は、経済史研究の基盤や環境を整備することで、経済史関連の論文・著書の概要をデータベース化してネット上に公開し、全国の歴史研究や教育に活用されている。経済史研究に必要な研究書・学術誌や原本史料の収集に努めているほか、学内外の研究者による経済史研究会の開催や、質の高い学術誌の刊行にも尽力している。

一般市民を対象とした社会貢献の一環である「黒正塾」では、歴史はもちろん、社会的関心の高い時事的なテーマを取り上げるなど、知的好奇心を満たしたい、教養を身につけたいという意欲ある市民の皆さんの希望に応えていきたいと思っている。

義を重んじる性格であり、後に神(関帝)として崇拝されるようになった」と説明。そして関帝崇拝の高まりと共に数多く出版された「関帝文獻」の1つとして、1960年に作成された「関帝聖蹟図」を紹介。全55図の中から、

主に図をピックアップし、解説の手法で関羽の生涯をわかりやすく解説していった。

さらに孔子の生涯を図や説明文、詩などで示した「孔子聖蹟図」と「関帝聖蹟図」を比較。「関帝の壮大な歴史ロマンに浸っている様子だった。

做すことで、神として崇拝されていた関羽の聖人化を進め、関羽の地位を孔子と同格まで上げた」と結論。会場に詰めかけた聴衆は、関羽の生涯に思いを馳せながら、中国の歴史ロマンに浸っている様子だった。



竹原信夫氏

第3回中小研セミナー(主催/大経大中小企業・経営研究所)が、10月10日(土)午後2時から、D館10教室で開催された。まず太田一樹所長が「本学の中小企業・経営研究所は中小企業研究に関して国内外で高い評価を得ており、今後も中小企業存在意義を強く発信していきたい」と挨拶。

第1部では、日本一明るい経済新聞編集長・竹原信夫氏が「がんばる大阪の中小企業!」大阪の魅力とパワーの源泉」のテーマで基調講演を行った。竹原氏は「経営には前向きな発想、つまり数字データよりの経営者の姿勢が大事だ」と前置きし、社内の挨拶やユニークなアイデアで社員をやる気にさせた事例、「なん

第3回中小研セミナー

大阪の魅力や元気を発信していくために

これからは「二国安の商売」ではなく、よそに無いアイデアで「二国高い商売」を実践し、自分の手で景気を回復させていきたいと思います」と締めくくった。

第2部は調査研究報告で、中小企業・経営研究所と2013年に包括連携協定を結んだ大阪産業経済リサーチセンター(大阪府商工労働部)の研究者3氏が報告を行った。基調講演は、

まず総括研究員の北出芳久氏が「大阪の地域ブランド戦略のあり方」のテーマで、地域ブランドを取り組むことで、地域経済が活性化し、成功事例などを紹介し、今後の方向性を提示した。

主任研究員の越村悠次郎氏は、「海外市場・現地化に取組む中小企業」のテーマで、中

小企業の海外展開の現状や成功事例などを報告。変化に対する迅速な対応の必要性を強調したうえで、日本企業による今後の海外市場獲得に期待を示した。

続いて同主任研究員の福井伸也氏が「アジアにおける都市大阪の魅力」のテーマで、大阪の持つ都市競争力について、アンケート調査の結果に基づいて分析。ビジネス環境

上の課題はあるものの、立地コスト面などにおける大阪の優位性をアピールした。

第三部のパネルディスカッションは、基調講演を行った竹原氏、調査報告を行った3氏が参加し、太田所長が司会進行を務めた。そして竹原氏は「地元の人材は自らの地域のブランドに気づいていないケ

太田一樹所長のコメント



2013年に開所50周年を迎えた中小企業・経営研究所は、中小企業学会と密接に連携し、中小企業研究のフロンティアとしての地位を脈々と

築いてきた。今後は、アカデミックな研究はもちろん、中小企業経営者や支援団体、中小企業関連の行政などにも関心を持っていただける取り組みを展開していきたい。第3回中小研セミナーも、そのような新しい方向性に基づく企画であり、中小企業に関心を持つ方々に、中小企業の現状や可能性について学んでいただけたのではないかと。地域貢献は大学の大きな役割。中小研の「ブランド」を生かし、中小企業活性化のための、さらなる「場づくり」に尽力していきたい。



パネルディスカッション

の国際化に対する意識については「リスクを先に考えるマインド思考ではなく、プラス思考が大事」。「大阪は研究開発に対する評価が高い。いかにブランドをアピールしていくかが重要。また産官学の連携については「大経大など、知の集積を地域内に抱えていることが強み」。「大学による人材育成が重要で企業とマッチングできれば突破口になる。」「中小企業の努力も大事だが地域全体でブランド力を高めていく組織が大事。行政が裏方となり事業者がリーダーを育て、対外的信用度を高く考えが述べられた。

第26回全学FDフォーラム ●2015年10月9日(金) 10時30分～12時00分

『教育を変えることは大学を変えること』



学校法人梅光学院理事長の本間政雄氏が「教育を変えることは大学を変えること」をテーマにお話しいただきました。本間氏は、旧文部省に入省後、同省総務審議官を経て、京都大学事務局長、大学評価・学位授与機構教授、立命館大学副学長、立命館アジア太平洋大学副学長を歴任してこられたご経験を基に、現在、大学マネジメント研究会の会長として、月刊誌の発行や私立大学フォーラムでの講演など、様々な活動をおられます。

本間政雄氏(学校法人梅光学院理事長)の「迅速で効果的な意思決定を可能にするシステム」、「改革を支える組織」の3つが必要不可欠であると話されています。では、改革の「核」となる教育を変えるにはどうすればよいのでしょうか? 本間氏は、次のように述べられています。

『大学のビジョンの構築は学長によってなされるが、その中心となる「教育」は、学部・学科教育であり、その司令塔は他でもない学部長である。学部長は、学生が何を考え、何を求めているのか、企業がどのような教育を受けた学生を求めているのかを探り、カリキュラム・教材・教え方に、整合性・体系性・一貫性のとれた学部教育を行えるよう改革を進めなければならない。そして、大学でどのような教育を行っているか、行われようとしているかを理事会は把握しておかなければならない。大学と法人の「人材」「システム」「組織」が機能して初めて、教育を変えられるのである。旧態依然とした体制や、学長、ましてや法人からのトップダウンだけでは決して実現しない。教育を変えようとする、自ずと大学は改革を迫られる。』

お話の最後には、大学改革を進めるにあたり、職員の役割についても触れられ、当日、参加していた職員にとっては、教員と手を携え、大学の改革に参画していく意識を新たにすることができました。

【参加者】40名(教員17名、職員22名、その他1名)

FD通信

全学FD委員会では、本学の教育の質を向上させるために、関心の高いテーマを検討し、3つのフォーラムを企画しました。2015年秋までに教員を対象に2回のFDフォーラムを行いましたので詳しくご報告します。

第27回全学FDフォーラム ●2015年11月13日(金) 10時30分～12時00分

『発達障害のある学生への支援—精神療法の観点から—』

久保田泰考氏(滋賀大学保健管理センター 准教授)

講師に滋賀大学保健管理センター 准教授の久保田泰考氏をお招きし、「発達障害のある学生への支援—精神療法の観点から—」をテーマにお話しいただきました。日々、学生と接する中で対応に苦慮し、発達障害が疑われることもあります。そんな学生とどう向き合い、どのように対応していけばいいかをお聞きすることができました。

「発達障害」とは広い概念で、その中に自閉スペクトラム症(自閉症・アスペルガー症候群・特定不能の広汎性発達障害)やADHD(注意欠陥・多動性障害)、学習障害などがあります。自閉スペクトラム症のうち「特定不能の広汎性発達障害」はその7、8割を占め、高校生や大学生で診断される多くのケースはこれに当てはまります。相手の気持ちは読めているが、やることかすれているなど、過敏さと不器用さが混在しているのが特徴です。しかし、その状態は一人一人違い、多様でもあります。

久保田先生は、カウンセリングで話している、困っているけど切迫感がない学生、というモデルケースについて以下のように述べられました。

その「困り感」を対話のなかで引き出すことで、社会化ができ、変化もできる。難しいのはどこまでやるか。正解はありません。実際には、専門家が直接行うのではなく、カウンセラーをコーディネーターの中心とし、教員や窓口の職員など複数人が連携して対応することが望ましいでしょう。

大学教育というのは単に知能やIQといったもので決まるものではなく、困ったときに何とかするバイタリティ、例えば人間関係で困ったとき友達に頼むようなことも含めて人材を育成するものではないでしょうか。結果、いろいろな要素で成績が取れる。単位を出す要件もあり、ジレンマもありますが、教育の機会を与えながら、彼女・彼らが困難とするものにアクセスしやすい工夫をすることが必要となるでしょう。

質疑応答では実際にそういった学生に対応している教員からの質問が多く出て、本学でも発達障害を持つ学生に対応する仕組みはありますが、それをさらに周知していく必要があることをつくづく感じました。

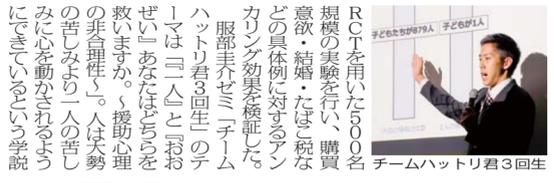
【参加者】39名(教員15名、職員24名)



時代に沿ったテーマで5チームが熱く臨んだ決勝

休憩をはさんだ午後2時15分からスタートした決勝には、各ロッキー位になった5チームが会場「中村健ゼミ」にて「KENJI」のテーマは「学生による企業評価サービス」(OAS)「Company Assessment Student」企業を公正に評価する取組の必要性を唱え、学生による評価サービスのビジネスモデルを提案、今後の活動内容にも言及した。

服部圭介ゼミ「しゃちほこ」のテーマは「二人」と「おれい」あなたたちはを救いますか。援助心理の非合理性。人は勢の苦しみより人の苦しみに心を動かされるようにできている。この学説



を検証。具体的な状況を思い浮かべられることの重要性を論じた。

服部圭介ゼミ「服部」ワトロフォルマのテーマは「Thinking vs Writing」書の内容は嗜好や意思決定の変化。書というアクションが人に及ぼす影響に着目し「思考」と「書」の効果を実験調査し、ユーモアを交えたプレゼンを実施した。

尾身佑介ゼミ「尾身」同族業のパフォーマンス。同族ノ非同族の証明と地域差の発見。同族企業の経済的効果とOA分析。企業として起すべきアクションなどを提案した。

プレゼン内容とともに社会人としても高レベルに

5チームの熱いコメント。審査員代表が「時」なプレゼンテーションが流れた。審査員による採点を発表された。午後5時30分から、決勝結果の発表と表彰式・閉会式が行われた。

審査員代表が「時」なプレゼンテーションが流れた。審査員による採点を発表された。午後5時30分から、決勝結果の発表と表彰式・閉会式が行われた。



20チームが独自のテーマでプレゼンした準決勝

準決勝出場したのは、10月24日(土)の予選を勝ち抜いた20チーム。5会場に分かれて激戦を繰り広げた。藤中裕二ゼミ「EAST MOUSE」のテーマは「結婚指輪の裏側」。結婚指輪の裏側に隠された真実と着目して店調査を実施し、購入価格の変化を明らかにする。貴志川線が存続に成功した理由や今後必

要な施策を調査・報告した。

高松ゼミ「たかま2」のテーマは「結婚指輪から見た社会の真実と裏側」。結婚指輪の裏側に隠された真実と着目して店調査を実施し、購入価格の変化を明らかにする。貴志川線が存続に成功した理由や今後必

善修ゼミ「Z会」のテーマは「教科書の危機から復活した和歌山電鉄志願書」。地方鉄道の厳しい現状を紹介したうえで、貴志川線が存続に成功した理由や今後必

東武ゼミ「GOOD LUCK!!」のテーマは「地方鉄道と危機から復活した和歌山電鉄志願書」。地方鉄道の厳しい現状を紹介したうえで、貴志川線が存続に成功した理由や今後必

東武ゼミ「EAST MOUSE」のテーマは「結婚指輪の裏側」。結婚指輪の裏側に隠された真実と着目して店調査を実施し、購入価格の変化を明らかにする。貴志川線が存続に成功した理由や今後必

ホームカミングデー 開催 大学祭

草薙ゼミ、小川ゼミ、52期生会、32期生会、43期生会、難波ゼミ、中村ゼミ、徳永ゼミ、山本ゼミ、税理研究会OB会、大学院同窓会、34期生会、高松ゼミ、交通研究会、証券研究部、写真部、漫画研究会、本村ゼミ 写真パネル展、将棋部、パソコン部

惜敗を糧に、新たなステージへ



夕方6時過ぎ、昼の暑さがすっかりと横たわったピッチで始まった試合の序盤は、相手の北陸大に押し込まれる展開。手

前半勢も後半立て直し終了間際(下)ドラマが 夕方6時過ぎ、昼の暑さがすっかりと横たわったピッチで始まった試合の序盤は、相手の北陸大に押し込まれる展開。手

数をかけずにディフェンスラインの裏のスペースをつきながら迫ってくるのを、終始高い集中力を発揮したCBの山口とFW坪井が交代を余儀なくされてしまった。支柱の速いプレスに得意の短いパス交換が封じられていた攻撃は、35分過ぎにチャンスを迎える。相手陣内中央でボールを受けたMF石川が、見事なスルーパスをMF宮原へ。GKと一対一の決定機も、シュートはセーブさ



とチャンスを作っていく。しかし、山部監督が「キーパスにアイデアが足りなかった」と悔やんだように、最終局面でプレの精度を欠き、なかなかゴールには至らない。35分には絶妙のタイミングで飛び出したFW井口が、GKをかわしてシュ

監督&選手VOICE



山部芳弘監督

はうちらしいパスをつないで攻めるサッカーができたと思います。ただ、あの失点は防ぎたかった。攻めている際のカウンターへの配慮を含めて、経験不足を痛感しました。ただ、2、3年生が多いチームが、全国の舞台でここまで戦えたことは手ごたえを感じています。今後のリーグ戦現存部では、リスク管理にも気を配りながら、フィジカル、ポジショニングすべてにおいてレベルアップして、戦っていきます。



坪井啓悟主将(4年生)

自分ももう少しCFとして機能できていけば、状況は変わります。後半はサイドを切り崩す場面も増え、決定的なチャンスもあったんですが、最後のパスやシュートの精度が低く得点につながりませんでした。ただ、僕たちのサッカーが全国で通用しないとは思っていません。後輩たちには来年こそに帰ってきて、リベンジして欲しいです。



選手VOICE

●丸山敬大前主将(3年生) 10月の秋季リーグ戦で、私たち3年生はソフトボール部を引退しました。振り返ると、とても充実した部活動生活で様々なことを吸収できたのではないかと思います。特に、全国大会に出場できたことは私たちの大きな思い出となりました。比較的少人数のなかで活動していたため、役割や分担についても助け合いを大切にできました。チーム内でコンタクトが十分に取れていたことが全国大会出場という良い結果につながった最大の要因だと思います。また、後輩たちには私たちが成し得なかった全国での勝利を目指して頑張してほしいと思います。そして、私たちのように、ソフトボール部として活動できて良かったと言えぬように取り組んでほしいです。

	1	2	3	4	5	計
沖繩国際大学	2	0	4	5	3	14
大阪経済大学	3	0	3	0	0	6

●秋田慎一朗主将(3年生) 2年ぶりの全日本選手権大会でしたが、結果は初戦敗退でした。全国ベスト8を目標に取り組んで来ましたが、全国の強豪校を相手に勝利することの難しさを学びました。そして、高いレベルを知ることができ、今のチームに足りないものが明確になったと思います。私たち3年生は今年の秋季リーグで引退となります。後輩たちには来年も必ず全国の舞台に帰ってきて、勝利し、全国でもトップレベルと呼ばれるような強いチームを目指してほしいです。最後になりましたが、今大会もたくさんの方々が応援して下さいました。本音が伝わりました。

大学サッカーの最高峰「2015年度第39回総理大臣杯全日本大学サッカー選手権大会」今年5月に34年ぶり3回目の出場を決めたサッカー部の初戦が、8月7日(金)にヤンマースタジアム長居で行われた。1点を争う好ゲームの決着は、終盤にまでもつれこんだ。

2015年度 第39回 総理大臣杯 全日本大学サッカー選手権大会			
1回戦 試合結果	大阪経済大学	0	北陸大学
8/7(金)	0	前半 0	後半 1

サッカー一部



34年ぶり 総理大臣杯で躍動

数をかけずにディフェンスラインの裏のスペースをつきながら迫ってくるのを、終始高い集中力を発揮したCBの山口とFW坪井が交代を余儀なくされてしまった。支柱の速いプレスに得意の短いパス交換が封じられていた攻撃は、35分過ぎにチャンスを迎える。相手陣内中央でボールを受けたMF石川が、見事なスルーパスをMF宮原へ。GKと一対一の決定機も、シュートはセーブさ

トを放つが惜しくもサイドネット。シリシリした攻防が続く中、PK戦突し込まれてしまった。最後まであきらめずにボールを追った大経大だった。北陸大のカウンターアタック。GKからのロングパスをヘディングでつなぐ。走りこんだFWが、ゴール右に流れて幕を閉じた。

努力の末、部員全員で勝ち取った2年ぶりの

全国の晴れ舞台を駆ける

ソフトボール部

2年ぶりに全日本大学ソフトボール選手権大会への出場を果たしたソフトボール部。全日本選抜投手を擁する沖繩国際大学との1回戦が8月29日(土)に三重県志摩市の浜島ふるさと公園で行われた。後攻の本学は、絶対的エースの丸山がマウンドに上がり、ある程度の失点は覚悟しなければならず、味方打線がどれだけ援護できるかが鍵となる一戦となった。



相手打線の圧力に耐えてきた丸山の疲労はピークに達する。4回、死球と味方エラー、犠牲フライと長短3連打を浴び5失点、続く5回、丸山をリリーフした1年生の丹羽も3点を失い、最後に力尽きた。三度反撃を試みる経大打線であったが、4回、5回と三者凡退となり、大会規定により6-14の5回コールド負けで2度目の全国大会の幕が閉じた。ソフトボール部は指導者がいない中、自分たちで工夫をして日々練習を行い、全国の舞台まで登りつめた。試合中の作戦やサインなども主将の秋田が担い、部員全員で戦い抜いた。学生だけで2度も全国大会に出場することは本当に立派なことである。更にこの経験を糧にして、念願の全国大会1勝を挙げてもいい。

全国的強豪相手に粘りを見せるも終盤に力尽きる 一ス丸山を援護したい経大打線は、1番秋田のヒットと3番藤浦のバントヒットで一死一、二塁のチャンスを迎える。ここで打線の核である4番山本がライトオーバーのタイムリースリーバーを放ち、2-2の同点に追いつく。続く5番横尾の内野ゴロがフィルダーストチョイスを誘い、すぐさま3-2と逆転に成功する。2回はいつもの丸山に戻り、相手強力打線を完璧に抑えるも、2回の陽射しが残る中、再び丸山に襲いかかる。徐々に投球数が多くなり、

長短4連打などで4点を失いビッグinningを作られてしまう。しかし、経大打線は諦めることなく、再び反撃に転じる。3番藤浦の内野安打に4つの四球が絡み、二者連続の押し出しで5-6と1点差に迫る。なおも続く一死二、三塁のチャンスで、エース丸山が打席へ。打ち込まれた悔しさを晴らすべく、執念でライオへの犠牲フライを放つ。同点に追いつく驚異の粘りを見せた。夏の陽射しが残る中、徐々に投球数が多くなり、



バドミントン部

総力戦で勝利まであと二歩に迫る!



2年ぶりの全国の舞台

10月、バドミントン部は「全日本学生バドミントン選手権大会」に出場。2年ぶりの全国大会に挑んだ。男子団体の部1回戦の相手は、関東の強豪、青山学院大学。「実力差はほとんどない、勝機はある」と、田島裕司監督以下全員が、必勝を期して臨んだ。

2回のダブルスと3回のシングルスで争われる団体戦。先に3勝した側



第66回 全日本学生バドミントン選手権大会				
男子団体1回戦試合結果				
10/10 (土)	大阪経済大学	2	0	0
	青山学院大学	0	2	2
	2	0	2	2
男子個人1回戦結果				
10/13 (火)	吉田剛 (大阪経済大学)	21	6	10
	平津佳幸 (日本大学)	14	21	2
	1	10	21	2

試合後、田島監督は

「誰かが勝ちたいという執念を見せられたが、集中力に欠ける場面があった」と、監督が悔しかったように、技術面・体力面ではひげををらなかつたものの、要所のミスが勝敗を分けた。矢田

の勝ちとなる。第1シングルスでは後手を踏んだものの、続く第2シングルスでは、1年生ながら春季リーグMVPを獲得した千葉が、見事なパフォーマンスで勝利。さらに、矢田主将と小川が組んだ第1ダブルスも、終始相手を圧倒し完勝するなど、一時は逆転に成功する。しかし、その後の2戦で力を発揮できずに連敗。最終マッチカウント2-3で、無念の敗退となった。

主将も「緊張状態を払拭できずに試合をしていた選手がいた」と振り返り、この試合を増やして、リベンジしたい」と、来年を痛感していた。

3日後に行われた男子個人の部では、吉田が出場。第1ゲームを取り、勢いに乗るかと思われたが、2ゲームを連取され悲願の勝利とはならなかった。

「経験不足を補う意味で、関東の大学や実業団との試合を増やして、リベンジしたい」と、来年を見据えた強化策に言及。また、4年生の矢田主将は「悔いはない、やりきった」と、自身最後となった全国でのプレーに納得の様子。「本来の実力を出せば必ず勝てる」と、後輩に夢を託した。

8年ぶりの大舞台
柔道部が8年ぶりに出場した全日本学生柔道団体優勝大会が、10月24日(土)、午前10時からベイコム総合体育館(尼崎市記念公園)で行われた。開会式では昨年度の優勝校から優勝旗が返還され、続いて大会会長や主催者・後援者の代表が挨拶し、選手宣誓が行われた。

一回戦突破への期待が高まった。しかし五将以下の3選手が、いずれも1階級上の挑戦となり、中堅100kg級の金田、三将(73kg級)の榎木、副将(66kg級)の田中が体力差を見せつけられる展開で判定負け。3連勝のあと3連敗から、最後の勝負をかけた大将戦(90kg級)へもつれこんだ。本学の応援席から懸命の声援が飛び交うなか、チームの命運を背負って熊本が登場。一階級上の体力差に苦しみながらも一進一退の攻防が続いたが、試合時間の5分が経過し、残念ながら判定負け。3対4の僅差で競り負ける結果となり、柔道部の初



悔しさ残るも自信と収穫を得る!

柔道部

戦敗退が決まった。安田太監督は「棄権はないと覚悟していた。しかし前半の3連勝が彼らの自信につながると思う。試合では稽古以上の力は

出ない。来年また、この会場に戻ってくるためにも、明日から再びコツコツと地道にやろうじゃないか」と選手たちをねぎらっていた。

選手VOICE

榎木 仁主将(3年生)
「8年ぶりに全日本学生柔道団体優勝大会に出場できたことが、僕らにとって一歩前進。まずは初戦突破が目標で、前半の3選手はポイントゲッターなので信頼していた。また後半の4試合一つでも引き分ければ勝ちだったのでも悔しい思いがある。部員数は少ないが団結できる良いチームなので、密度の高い練習で地方を付けていけば、次は1回戦・2回戦を突破できるはず。来年必ずこの場に復帰しベンジしたい。応援ありがとうございました。」



50回目の全国の舞台
ハンドボール部は、北海道函館で開催された「全日本学生ハンドボール選手権大会」に30年連続50回目の出場を果たした。11月7日(土)の一回戦、相手はインカレ優勝を何度も経験している関東の強豪、日本体育大学。日本体育大学とほぼ2年前にも同大会で対戦し、惜敗ではあったが、苦杯をなめさせられた因縁の相手である。日本体育大学に勝利することができれば、優勝も現実味を帯びてくるため、チーム全体の気合いは凄まじいものだった。また、福井孝明監督は今大会が監督として挑む最後の大会のため

監督のためにも絶対に負けることはできない試合であった。試合開始の笛と同時に両チーム激しい攻防が繰り広げられた。日本体育大学は、持ち味である速攻やクロス攻撃で攻めてくるのに対し、本学ハンドボール部の底力をみせる。田村主将の気迫あふれるシュートを皮切りに、キーパー吉田の好セーブなどで勢いを取り戻し、きまなかったが、今大会、チームは今度以上に日本体育大学相手に好ゲームをみせた。しかし、前半で開いた点差を縮めることができず、結果は28対38で本学ハンドボール部は敗戦した。

福井監督の最後の試合をばねに来年度からの更なる飛躍を期待したい。

福井監督の最後の試合をばねに来年度からの更なる飛躍を期待したい。

高松宮記念杯
第58回全日本学生ハンドボール選手権大会

大阪経済大学		日本体育大学	
11/7 (土)	28	14 14	20 18
		前半	後半
		14	18
		28	38



ハンドボール部

北の大地で王者を追いつめる!

監督&選手VOICE

●福井孝明部長兼監督
11月7日から北海道函館市で行われた高松宮杯記念杯第58回全日本学生ハンドボール選手権大会において、優勝した日本体育大学と初戦で対戦し、部員達の最後まであきらめない頑張りのおかげで、今年度の中でベストゲームをしたので、残念ながら敗れてしまいました。函館市に来温かい応援をいただいた大学関係者(学生部長をはじめ、OB諸兄、多くの父母に感謝を申し上げたい)、御礼申し上げます。これからも30年連続50回という連続出場回数を伸ばすとともに、優勝を目指し部員達は頑張りますので、大学、OB諸兄、ご父母の益々の指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

●白石史一コーチ
この度は、ハンドボール部の全日本学生選手権大会出場にあたり多方面の方々から多大な支援を頂き、誠にありがとうございました。試合結果は残念ながら初戦敗退となりましたが、選手達は本大会を優勝した日本体育大学相手に果敢に戦ってくれました。4年生は4年間の集大成として悔いのない試合に、また、3年生以下は来シーズンに向けて新たな目標や課題が出来た試合になったと思います。既に新チームは、来シーズンでの目標や課題を達成するために動き始めています。チームとしての変化と継続を図るが結果出せるよう精進してまいりますので、今後ともご支援よろしくお願い致します。

●田村優希主将(4年生)
今年の全日本学生ハンドボール選手権大会は、一回戦で負け、不甲斐ない結果で終わってしまいました。主将として、このチームをまとめることができずとも悔しかった。最後の試合で、今までの一番頑張ったチームになんかできなかった。私達4年生が成し遂げることができなかった「全国ベスト4以上」という目標を来年の後輩達に成し遂げてもらいたいと思います。

今年度の全ての大会を制覇
有言実行
堂々の
グランドスラム!!
経スポ Part II



吹奏楽総部

大隅西小学校を招き 演奏会を開催

初の試みで貴重な体験

吹奏楽総部が、大隅西小学校全生徒319名を招待し、10月8日(木)午前10時からA館フレアホールで演奏会を開催された。このような演奏会が開催されたのは初めてで、そのきっかけは、小学校のキャリアラムにおける文化活動の一環として、大隅西小学校の音楽担当の教諭からの依頼によるものであった。

大隅西小学校とは、陸上競技部による出前授業、教職科目「学校インターンシップ」の協定校、学童保育の「いきいきで



●榎本和也部長(3年生)
小学生に対して演奏するのは初めての経験だったので、小学生が楽しく聞けるような曲を選ぶのに時間が掛かりました。また構成の面では、退屈しないよう配慮した曲順にしましたが、座って聞いているだけでは面白くないと思い、企画ステージという事で指揮者体験をすることにしましたが、そもそもやりたい人がいるのかという不安が残りました。

曲も構成も全て手探りの状態だったので、演奏会が始まるまではどうなるのか心配でしたが、いざ始まると歌ったり踊ったりと楽しく聞いてくれたので安心しました。また、今まで演奏会でそこまで喜んでもらった事が無かったのでとても嬉しく、それによって楽しく演奏することが出来ました。

後、二つ目のプログラムの指揮者体験コーナーへと移った。司会を担当する部員が「指揮をしたい人」とコールすると決まらぬほこり、たまたまの児童が手を挙げた。その中で3人の児童が選ばれ、指揮によって演奏がまどめられているのを見て感動した様であった。三つ目のステージでは、児童達にもなじみのある曲が演奏され、会場から手拍子、そして歌詞を口ずさむ児童。また、「妖怪



やクッパが現れ、会場が興奮の渦に包まれた。全てのプログラムが終了し、自然とアンコールの拍手喝采が巻き起こり、まさに人気グループのコンサート会場の様だった。最後に児童連代表からお礼の言葉をもらい、部員達は笑顔で心えいた。

今年度の始め、4年生の満留・西光ペアが口を揃えて言っていた言葉がある。「今年度の全ての大会を優勝する」と。前年との決勝はラストワンブ度、彼らは悔しい思いをしながら勝ち越され、彼らは涙を吞んだ。

その日以来、インカレでももちろん全ての大会での優勝を目標に練習に励んできた。4年生になった満留・西光は就職活動で忙しい中でも、合間を縫い練習に参加した。上農主将は「4年生が頑張っていたからこそ、自分たち後輩も頑張れた」と、4年生の姿が全部員の意識を変えた。

迎えた春の大学対抗の関西春季リーグ、大阪大学との接戦の末に優勝。6月の関西インカレでは満留・西光ペアが大学として24年ぶりの優勝を果たした。その後、関西秋季リーグ戦を同ペアが制覇、大学対抗戦の全日本学生リーグも難なく

●上農主将(3年生)
インカレで満留・西光さんが優勝し、大学としては今年度の全ての大会で優勝という結果を残すことが本当に嬉しい。またこのように歴史的快挙に貢献できたことを誇りに思います。去年悔しい思いをしたこともあり、今年度は例年以上に厳しい練習をこなしてまいりました。その成果がこのような大きな大会で、辛かっ事もすべて報われた気がしました。これまでサッカー部が成長できたのも皆さんの人たちの支のおかげと感謝しています。特に日頃から御世話になっている自転車部OB・OGの方々に近い結果を報告できてよかったです。



●榎本和也部長(3年生)
今年度の全ての大会を制覇する事ができました。しかし、2年とも全国大会では初戦敗退という結果に終わってしまいました。結果だけを言いたくはなかったが、試合内容では各個人がチームのことを考え、「チームを勝たせよう」と意識できるような成長ができたと思っています。来年こそは全国大会で良い結果を残せるよう、チーム一丸となって努力していきたいと思っています。

●榎本和也部長(3年生)
今年度の全ての大会を制覇する事ができました。しかし、2年とも全国大会では初戦敗退という結果に終わってしまいました。結果だけを言いたくはなかったが、試合内容では各個人がチームのことを考え、「チームを勝たせよう」と意識できるような成長ができたと思っています。来年こそは全国大会で良い結果を残せるよう、チーム一丸となって努力していきたいと思っています。

第63回 全日本学生剣道優勝大会	男子団体戦1回戦試合結果	10/25 (日)	大阪経済大学	早稲田大学
			1	4

教職 KAWARABAN

●だいきけだいい教室
だいきけだいい教室では、近隣の地域の小中学生を中心に大学を身近に感じてもらうながら、楽しく勉強をしてもらえるよう、毎週土曜日に本学学生が学習のサポートをしています。今回は趣向を変えて学生たちが企画した「ハロウィンパーティー」で子どもたちに楽しんでもらいました。中にはかわいい仮装姿で参加する子どもがいるほどの熱の入れようでした。宝探しゲームやジェスチャーゲームをチーム対抗で競い合い、勝った子どもたちはお菓子のプレゼントに大喜びでした。最後はかぼちゃのバケツにたくさん入ったお菓子をみんな仲良く分け合っており、とびっきりの笑顔で会は終了しました。



●日 時 2015年10月10日(土) 10:00~12:00

●会 場 E館各教室

●講 師 学生20名

●参加者 小中学生50名

●教員採用状況 教員採用選考試験合格者 2015.11.11現在

卒業年月	学部学科	氏名	採用自治体	校種/教科
2016年3月卒業予定	経済学部経済学科	赤松徳之	大阪府	高校/公民
2016年3月卒業予定	経済学部地域政策学科	白江 嶺	大阪府	高校/商業
2016年3月卒業予定	人間科学部人間科学科	伊原隆晃	徳島県	中学校/保健体育
2015年3月	経営学部ビジネス法学科	安部千通	大阪市	特別支援
2015年3月	経営学部第2部経営学科	矢野史彰	兵庫県	高校/商業
2015年3月	人間科学部人間科学科	松尾紗和	大阪市	小学校
2013年3月	経済学部地域政策学科	松田恵介	京都府	中学校/社会
2013年3月	経済学部経済学科	峠 広之	大阪市	小中いきいき連携
2012年3月	人間科学部人間科学科	包山太一	大阪市	中学校/保健体育
2011年3月	経営情報学部ファイナンス学科	萩 大貴	大阪市	中学校/数学

※大学に報告のあった方のみ掲載

聖地・日本武道館 剣道部の執念

10月下旬、武道の聖地・日本武道館において「第63回全日本学生剣道優勝大会」が開催された。本学剣道部(男子団体)は2年連続で全国大会への出場を果たした。

初戦の相手は強豪・早稲田大学。日本一に輝いたこともあり、名実ともに一目置かれる存在である。本学も全日本個人三位に輝き、実業団への入団が内定している岡本副主将を筆頭に、決して実力は劣らない。

「臆せず、攻め続ける」とそう語る久野数馬監督ら指導者陣が見守るなか、決戦の火蓋は切られた。この大会は7人団体制であり、勝敗が同数の場合には、総取本数により、勝敗が決する。選手全員が気持が試される。試合前、「必ず一本を取ってくる」と語った先鋒・岡本は果敢に上段から攻め続けるも、結果は引き分け。続く次鋒・片岡は関西予選で獅子奮迅の大活躍を見せ、全国大会出

10/25 (日)	大阪経済大学	早稲田大学
	1	4